

1-(1) 法人本部／東京国際大学

I. 2017年度（平成29年度）事業の概要

東京国際大学は「公德心を体した真の国際人の養成」を建学の精神に掲げ、建学時からの教育目標である「Vision, Courage, Intelligence を身に付けた人材づくり」を具現化するために、「スポーツの東京国際大学」「英語力の東京国際大学」を柱とした教育事業展開を強力に推進している。

「スポーツの東京国際大学」に関しては、最高レベルの施設環境のもと、世界レベルの指導陣により展開される強化クラブ事業を中核に据えている。アスリート学生の学業面の支援体制は、人間社会学部のスポーツ2学科が中心的役割を担いつつ、全ての学部で受入を行っている。2017年（平成29年）5月時点の体育会系クラブ所属学生数は1,299名、全学部所属学生の20%にのぼった。

「英語力の東京国際大学」に関しては、大学の更なるグローバル化を目指し多様な施策を展開している。2014年度（平成26年度）にスタートした英語による学士課程コース「イングリッシュ・トラック・プログラム（Eトラック）」には、2018年（平成30年）5月時点で世界59ヶ国から724人の学生が在籍、キャンパスのグローバル化に大きく貢献している。英語ネイティブ教員組織グローバル・ティーチング・インスティテュート（GTI）は、50人規模に拡大し、姉妹校ウィラメット大学におけるアメリカン・スタディーズ・プログラム（ASP）留学プログラムとの連動等、英語教育指導体制の強化に取り組んでいる。本学主催の国際シンポジウムは日米の碩学を招き第6回目の開催となった。

大学キャンパスの枠を超えた教育プログラムの開発・強化に積極的に取り組んでいる。文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC）」に採択された「小江戸（川越）まちおこし」事業においては、学生が積極的に地域に進出するとともに、各地で開催されるまちづくりコンテストにも積極的に参加する等多様な活動に取り組んでいる。JTB総合研究所との産学連携事業「観光立国プログラム」では、実務家による講座開設とともに、観光事業の現場でのインターンシップも導入し体験型学修を推進している。

学長を中心とした教学ガバナンス態勢を支える各種委員会は、副学長を中核メンバーとする構成をとり、全学的視野に立った教学改革・事業展開を推進している。全学人事委員会、カリキュラム編成委員会、就学管理委員会、グローバル化推進委員会、FD委員会、CD委員会が設置され、それぞれ学部横断的・全学的見地に立って、教員人事、カリキュラム編成、学生の入学・卒業、グローバル化企画、FD、キャリア教育等につき学長の業務遂行をサポートしている。

副都心池袋に本学のグローバル教育機能を集約した都市型国際キャンパスを開設する。

サンシャインシティに隣接する造幣局跡地再開発事業（豊島区造幣局地区防災公園街区整備事業）に本学の企画提案が採用された。2020年（平成32年）10月に土地の引渡しを受け、2023年（平成35年）9月開校を予定する。

新キャンパスには、Eトラックをはじめ本学のグローバル教育機能を集約し、川越キャンパスの収容定員約7,000人のうち3,500人を移転する計画である。学生数3,500人のうち2,000人は、100カ国超からの留学生で構成するほか、世界各国から教員・研究者を招聘し、国策に沿った国際ブレイン・サーキュレーション拠点を構築する。

川越キャンパスとは東武東上線・東京メトロ有楽町線一本で接続され、川越キャンパス、坂戸キャンパスと池袋国際キャンパスを結ぶ各種プログラムの開発も進める。

「池袋国際キャンパス」開校に向け、本学のグローバル化を更に加速する。2018年度（平成30年度）からは、Eトラックに起業家養成/ITビジネス・コースを開設する。また、グローバルスポーツ・プログラムを始動、グローバルに活躍するアスリート学生を養成する。

また、Eトラックへの入学者増加や新学科設置計画等を踏まえ、2021年度（平成33年度）を目処に学部入学定員を250人増員する「学部入学定員中期拡充計画」を理事会にて決議した。

池袋に都市型国際キャンパスを構築することにより、川越・坂戸キャンパスと一体化されたグローバル化教育の基盤を一層強固なものにする。

II. 事業項目

1. 教育内容の充実

(1) 「スポーツの東京国際大学」の推進

実施事項：	強化クラブ及び人間社会学部スポーツ2学科を軸としたスポーツ振興。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 本学強化スポーツクラブは、最高水準の指導者、最高水準の施設環境のもと、学生競技における最高レベルの成果達成を追求し、そのなかで学生の全人格的成長を促す。 ● サッカー部（前田秀樹監督）、女子サッカー部（福田あや監督）、駅伝部（横溝三郎総監督、大志田秀次監督）、ウエイトリフティング部（三宅義信監督）、硬式野球部（山中潔監督、古葉竹識名誉監督）、女子ソフトボール部（宇津木妙子総監督、城戸絵理沙監督）、ゴルフ部（湯原信光監督）、硬式庭球部（佐藤直子監督）、アメリカンフットボール部（村上崇就ヘッドコーチ）、剣道部（出水盛文師範）、チアリーディング部（内川薫監督）、アーチェリー部（森下満仁監督）を強化スポーツクラブに指定。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 17万㎡（東京ドーム4個分）の坂戸キャンパス総合グラウンドはプロ仕様の施設を完備している。 ● 強化クラブ拡充に呼応して、アスリート学生の学業面での専門性向上を図るため、人間社会学部に人間スポーツ学科、スポーツ科学科を設置している。
--	---

(2) 「英語力の東京国際大学」の実践

① イングリッシュ・トラック・プログラム（Eトラック）拡充

実施事項：	英語で学位取得が可能なEトラックを学部・大学院に設置、世界各国から留学生を受入れキャンパスのグローバル化を推進。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 学部では、2014年度（平成26年度）より経済学部及び国際関係学部横断でEトラックを設置、「Business Economics Major」及び「International Relations Major」の二専攻で学生を募集している。 ● 大学院では、経済学研究科、国際関係学研究科にてEトラックを設置している。2018年度（平成30年度）には商学研究科にもEトラックを開設する。 ● 春・秋二回の入学受入を行う態勢とし、2018年（平成30年）5月時点で、世界59ヶ国から724人の学生が在籍している。 ● Eトラック推進のため、教員組織の強化に加え外国人職員の採用等事務局体制の強化にも取り組んでいる。 ● ベトナム、インドネシア、タイに現地事務所を開設する等、世界各国からの学生募集に積極的に取り組んでいる。

② 国際学生寮増強

実施事項：	Eトラック入学者の増加に対応し、国際学生寮を増設。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外から直接来日する留学生全員を国際学生寮に受け入れる態勢をとっている。入学者増に対応し、逐次国際寮の増設に取り組んでいる。 ● 留学生の生活支援のため、日本人学生等によるレジデント・アシスタント（RA）制度を導入した。RA学生の英語力・コミュニケーション能力向上も企図している。

③ グローバル・ティーチング・インスティテュート（GTI）事業展開

実施事項：	英語ネイティブ教員組織グローバル・ティーチング・インスティテュート（GTI）による英語教育強化。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● GTI所属英語ネイティブ教員は50名の体制。 ● 学長直轄組織として活動対象は言語コミュニケーション学部に留まらず、Eトラック、国際関係学部、経済学部の英語教育も担当している。2018年度（平成30年度）には、人間社会学部のグローバルスポーツ・プログラムも担当する。 ● 60分週3回、1クラス10人前後の米国型語学教育を導入し、英語スキルの向上に取り組んでいる。 ● 第1キャンパス内に英語専用ラウンジEnglish PLAZAを設置、GTFを常駐させ、授業時間以外でも英語力鍛錬可能な環境を整備している。

④ ジャパニーズ・ランゲージ・インスティテュート（JLI）の事業展開

実施事項：	日本語教育組織ジャパニーズ・ランゲージ・インスティテュート（JLI）によるEトラック学生の日本語教育強化。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● Eトラック学生の日本語スキル向上のため、日本語教育組織JLIを設置している。 ● JLIは、Eトラック及びジャパン・スタディーズ・プログラム（JSP）在籍学生の日本語教育を専担する。

⑤ アメリカン・スタディーズ・プログラム（ASP）の充実

実施事項：	ウィラメット大学で開講されるアメリカン・スタディーズ・プログラム（ASP）を本学の旗艦留学プログラムと位置付け、GTIによる教育との連動等教育効果の向上を図っている。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 創学以来の姉妹校ウィラメット大学（米国オレゴン州）にて開講されるASPには、毎年100名を超える学生が参加し、約1年間の留学を経験している。GTIにおける教育とも連動させ、本学グローバル化教育の柱となっている。 ● 2018年（平成30年）プログラムは、JASSOより70名の奨学金支給枠（月額8万円）の対象として採択されている。 ● 留学による学修成果を強化するため、事前事後学修を導入している。

⑥ 国際シンポジウムの定例開催

実施事項：	第6回国際シンポジウム「日本と世界 Part3」を開催。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 高村正彦自由民主党副総裁、ハーバード大学ジョセフ・ナイ教授、外交評論家・MIT国際研究センター シニアフェロー岡本行夫氏による講演・パネルディスカッションを実施。安全保障に関連した諸問題について活発な議論が交わされた。

(3) キャンパス内外におけるジェネリック・スキルの涵養

① 文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC）」

実施事項：	「小江戸かわごえ」グローバル人財育成による「まちおこし」プログラム。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC）」に採択されたことを契機に全学的に取り組んでいる。 ● 地域でのフィールドワークやインターンシップ等、多様な体験型学修を組み込んでいる。 ● 地域を越えたまちづくりコンテストにも積極的に参加、コンテストでの受賞にもつながっている。

② 国際関係学部「観光立国プログラム」

実施事項：	JTB総合研究所との産学連携による、「観光立国プログラム」の拡充。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● JTB総合研究所の実務家を招き、観光に関する実践的教育コンテンツを整備した。 ● MICE産業論や、JTBグループと連携したインターンシップ等、先端的・実践的プログラムも設置し、「観光立国」を担う人材の育成に取り組む。

③ 学生スタッフ成長プログラム

実施事項：	大学内で働く学生を計画的に育成していくことにより、学生の力を大学で活用していくとともに学生自身の就業力を強化する。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学生生活デザイン演習の授業サポートを担うスチューデントファシリテーター（SF）を拡充してきている。

	<ul style="list-style-type: none"> ● また、キャンパスのグローバル化推進に学生スタッフを全面的に巻き込むため、ステューデント・リーダーシップ・インターンシップ (SLI) も推進、English PLAZA やJapanese PLAZAの運営等に中核となって参加している。 ● 学生スタッフを育成し活用していくために「学生スタッフ成長プログラム」を導入。SFやSLIメンバー、オープンキャンパス・スタッフ等が参加している。 ● ジュニア・ミドル・トレーナーという3段階のレベルを設定し、能力向上を促進している。
--	---

2. 就職支援体制の強化

(1) 就職支援体制の充実化

実施事項：	就職先マッチング態勢の強化、スポーツ系クラブ学生へのサポート、Eトラック学生への就職支援体制整備。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> ● 就職先マッチングを専門に行うカウンセラーを配置した。 ● 体育会学生に対しては、スポーツ関連企業等その特長を活かした進路を選択し、専門のカウンセラーがサポートする体制を敷いている。 ● Eトラック学生に対しては、一年次から就職ガイダンスを実施、日本企業への就職にむけた心構えを植えつけていく。また、インターンシップ・プログラムも拡充している。

3. 施設・設備の整備

(1) 池袋国際キャンパス建設計画

① 計画概要

設置プログラム、学部等	Eトラック（経済学部、国際関係学部、大学院） 言語コミュニケーション学部	
校地	地区名	豊島区造幣局地区（市街地A画地）
	所在地	東京都豊島区東池袋四丁目3277番202の一部
	地積	10,000.05 m ²
	引渡し	2020年10月
	階数	地上22階
	延床面積	約35,000 m ²
	工期	2020年11月～2023年5月
	開校	2023年9月
	学生定員	3,500人 (内訳) <ul style="list-style-type: none"> ・経済学部Eトラック：1,400 ・国際関係学部Eトラック：920 ・言語コミュニケーション学部：1,000 ・商学研究科Eトラック：80 ・経済学研究科Eトラック：50 ・国際関係学研究科Eトラック：50

② 機関決定の経緯

2013年5月29日	理事会にて「都市型国際キャンパス」の構築を決議
2017年7月3日	理事会にて「都市型国際キャンパス」用地取得及び校舎建設について決議
2017年10月23日	理事会にて豊島区造幣局地区（市街地A画地）土地譲渡契約の締結を承認
2017年11月7日	独立行政法人都市再生機構との間で土地譲渡契約を締結
2018年1月12日	理事会にて池袋国際キャンパス建設に係る設計・監理契約の締結を承認
2018年4月9日	理事会にて池袋国際キャンパス収容定員構成計画及び学部入学定員中期拡充計画を決議

1 - (2) 東京国際大学附属日本語学校

I. 2017年度（平成29年度）の事業の概要

本校は、東京国際大学の附属日本語学校として1987年に開校し、全日制の課程を特色として「進学に強い日本語学校」という評価を得てきた。また、留学ニーズの多様化から、2012年度に半日制の課程も設置し、ベトナムやフィリピンなど日系企業の進出が著しい国からも、一定の成績要件を満たした質の高い学生を受入れている。

2017年度は、新たに全日制の7月入学を開始し、学生を確保する体制を強化した。

II. 事業項目

1. 正規課程 入学者数実績

課 程	日本語教育課程A	準備教育課程※	日本語教育課程B
授業時間	全日制(週 26 コマ)		半日制(週 20 コマ)
入学時期	4月(1年コース) 123人		4月(1年、2年コース) 49人
就学期間	7月(1.9年コース) 24人		10月(1.5年コース) 47人
	10月(1.5年コース) 99人		

※準備教育課程：高校修了まで12年を要しない国の学生を対象として、日本の大学入学資格を与えるための、文部科学省の指定を受けた課程。

2. 短期聴講 (1か月～6か月)

- ・4月、10月の正規課程に先立ち、1月、7月から3か月短期聴講する学生が大半。継続して4月に正規課程に入学する学生に対して入学金(10万円)を免除。

入学者数実績：1か月13人、2か月1人、3か月52人、計66人

3. 進路指導

- ・進路ガイダンス(大学、専門学校、大学院、就職など進路別に実施)
5月から6月にかけて、計7回開催、延べ126人参加。
参加者全員について進路指導室職員によるフォローアップ面接を実施。
- ・校内進路説明会・相談会
7月5日開催。7大学、13専門学校が参加し、卒業予定者が全員参加。
- ・東京国際大学指定校推薦入試説明会
7月18日開催。18人参加。
- ・個別指導
進路指導室職員と担任教員による指導/相談に加え、教務主任と事務局長による本番を想定した面接指導を実施。

2017年度（平成29年度）卒業生の進路別内訳は以下のとおり。

大学院	大学	短大	専門学校	就職	日本語学校	帰国	その他	計
3人	49人	1人	74人	14人	15人	52人	6人	214人

1 - (3) 一橋学院早慶外語

I. 2017年度（平成29年度）事業の概要

18歳人口の減少が大学入試全般の難易度を押し下げている中であっても、国立大学、早慶、MARCHといった難関大学においては、難度・倍率ともに高水準を維持している。特に昨今の「入学定員厳密化」による難関私立大学における合格者の絞り込みの強化は、ブランド志向の受験生が満足できるハードルをさらに上げ続ける結果をもたらしている。そんな受験生に対し一橋学院では、以下の3つの柱を軸に受験生ニーズに応え、他予備校との差別化を図った。

① 少人数教育という環境

少人数向け教室で行われる授業・密度の濃い質問環境はマンモス予備校では得ることのできない満足度を与えることを可能としている。

② 豊富なアウトプット量

基礎学力の完全定着を目的とする「毎朝テスト」は不規則になりがちな生活リズムを獲得させると同時に、同テストに始まる一連の小テスト群は膨大なアウトプット装置であり、生徒募集時の切り札として、学院の特色の一つをなすに至っている。

③ 英語強化プログラム

- ・小学校英語教科化時代への対応として、リラリス（小・中学生対象英語塾）のカリキュラムを、将来の大学受験対策にも接続可能なものへと拡充を図った。
- ・大学受験において外部試験の本格導入という中で、特に英検対策を講じる「英検セミナー」を新規に開設し、高校生の（受験を有利に進めるための）資格取得ニーズに応じてきた。
- ・高卒コースにあっては、クラスごとに異なる英語カリキュラムを実現。上位層向けの「プライムゼミ（演習）」から、基礎学習者向けの英文法「トリプル」プログラムなど、特色をもったカリキュラムで他塾との差別化を図った。
- ・「英語科便り（隔週）」を発刊。年間を通し、英語面から学院生を支える記事を掲載し、英語学習をバックアップするだけでなく、「生徒－講師・職員・OBOG」間の連携強化を図ると共に、保護者に信頼感を与える一助となった。

II. 事業項目

II-1 レギュラー授業

① 高卒コース[前・後期]

- ・東大、一橋大、早大、慶大などの最難関大学を目指す「プライムクラス」から旧帝大・MARCHレベルを志望するハイレベル・一般クラス、高校ゼロベースからの再スタートを図るACTクラスといった受験生のニーズに応じたきめ細かなクラス編成を行った。
- ・少人数制のメリットを活かした「チューター制」はチューター1人が適正人数の生徒を担当し、年間を通して勉強方法や受験生活に関するさまざまな質問に即応するもので、受験生とその保護者に対する信頼を得ている。

② 高校生コース[1～3学期]

- ・設置クラスは、原則難関～基礎で4レベル設定を行い、教科ごとに学力レベルや志望校に合わせた最適なクラス選択ができる編成を行った。また特に高3生対象に東

- 大・一橋大プライムゼミという特別カリキュラムも設置し「大学受験の名門」としてのアピールも行った。
- ・高3生のうち希望者には「合格保証制度」を用意し、メンタル面・経済面で受験生を支えてきた。
 - ・演習中心クラス「個トレ（個別トレーニング）」、定期試験対策に特化した「One Bridge（個別指導コース）」も補完的に授業本体に組み入れられており、受験を迎える生徒・保護者のさまざまなニーズに応じている。

③ リラリス～小学生・中学生対象英語塾 [1～3 学期]

- ・英語4技能育成を特色とする本コースは、特に従来型の英語教育では見落とされがちであったリスニング・スピーキングに力を入れ、グローバル化に対応できるだけのコミュニケーション能力の育成を行っている。
- ・本年は大学受験に繋がる要素をカリキュラムに導入し、他英語塾と差別化を図った。また英検取得(2級・準2級)を1つの目標に設定し、各季講習会を中心に目に見える結果を残す工夫を行った。

II-2 各期講習会

① 春期講習

- ・高等学校の春休みを利用して、新学年の準備のために開催される講習会である。予備校としては、4月新学期入学生の確保のための前哨戦とも捉えられる。
- ・期間が短いため新高1・高2・高3生に向けたコンパクトな講座(160分×2日=320分)を設置し、短期間で高校生に本学院の授業の質の高さを実感してもらえるように企画した。
- ・カリキュラムは新学期授業に連結させ、新学期へ継続受講を促した。

② 夏期講習

- ・夏期講習期間は1ヵ月半にわたり、参加者の多い重要な公開行事であるが、近年、各高等学校で独自の夏期講習を自校生徒に対して実施するケースが多く、高校生獲得に影響を及ぼしてきている。こうした状況において、大学受験を専門とする予備校ならではの魅力のある講座編成を行い、高等学校での講習との差別化を図った。
- ・受験勉強を本格的に始動させる高2生用に豊富なメニューで魅力ある講座群を用意し、意識の高い高2生の早期獲得を目指した。

③ 冬期講習・直前ゼミ

- ・冬期講習・直前ゼミは、高校3年生、高卒生にとっては入試直近の時期のため、大学入試センター試験・志望大学対策をメインにした講座を設置し、実践力～合格力を養成した。
- ・高校1年、2年生の冬期講習参加者は新年度入学に直結するため早期から受験対策を図ることをアピールし獲得を図った。

II-3 イベントその他

① リアル入試センター試験

- ・「大学入試センター試験」当日の夜、同一問題を高校2年生に体験してもらう企画である。現状の「センター試験」は、国公立大志望者のみならず、私大志望者も多数参加する一大試験となっている。
- ・この「リアル入試センター試験」により、2年生時点での学力を把握し、志望校まで

の距離を確認することができ、好評を博している。近年は他予備校でも実施するケースが多くなっているが、本校は他予備校に先駆けて本イベントを開始し、高校教員など教育関係者からの信頼も厚い。

- ・新聞やインターネットで公表される試験問題を解くだけでは味わえない臨場感を体験するのがポイントとなっており、単に問題を解答するだけでなく、成績処理後、個人成績表も発行している。本イベントは、近隣進学校との良好な関係性を維持する一助となっている。
- ・1年後の本番への重要な指針となるため、高校2年生に好評を博しており、取りまとめでの参加を希望する高校が年々増加、約2,000人の校外生を動員する規模にまで至っている。

② 2月スタートアップゼミ

- ・高校1年生・2年生を対象に、2月短期完結の講座を特別講習として設置。新学年に向けた学力の向上と定着を図る本ゼミは、同時に新学年生徒募集を開始する公開行事であり、高校生獲得のためには極めて重要なものである。
- ・実質全講座を無料として（手数料1,000円は必要）、多くの校外生に学院講師の授業に触れてもらうことに成功している。

③ 英検セミナー

- ・本年度より新規に始めたイベントで、4技能重視型英語教育への移行、大学受験における外部試験導入を機に、年々高まりを見せる「英検取得」熱に応えることを目的に設置した。
- ・高校生が取得するには難関とされる「準1級」、高校卒業レベルとされる「2級」に焦点を当て、「実戦問題」＋「解説」（1次試験対策）を本番前に行い、希望者には2次面接対策も行う本イベントは校外生にも門戸を開けており、結果として一橋学院入学へのもう一つの契機ともなっている。